

自動車環境計画 実施状況報告書 提出事業者一覧 計画期間:平成30年度～令和2年度

事業者名	所在	提出区分		業種			使用台数	平成30年度 燃料の使用状況				温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標の達成状況	温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標を達成するために講じた措置	左記以外の温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況	温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標を達成できなかった場合の理由
		条例第14条第1項	条例第14条第2項	トラック	バス	タクシー		揮発油 kl	軽油 kl	液化石油ガス (LPG) t	圧縮天然ガス (CNG) 千m3				
山梨交通株式会社	甲府市飯田3-2-34	○			○	○	316	23.7	3,503.5	28.9	120.2	平成29年度と比較して燃料使用量が減少したことにより、温室効果ガスの排出を抑制し、目標を達成した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブの徹底</li> <li>・デジタルタコグラフのデータに基づく個別指導の実施</li> <li>・従業員に対する環境に関する情報提供と教育の実施</li> <li>・燃費性能の高い車両への代替の促進</li> </ul>		
甲府通運株式会社	中央市山之神流通団地3329-9	○			○		70		605.0			燃費の前年度及び前々年度実績の平均燃費の2%向上を目指したのですが、車両数・使用燃料は大幅増加した中で実績は28.29年度平均値とまったく同じ燃費が計上されて、燃費向上は見られませんでした。	毎日の燃料使用量を作業終了後にドライバー各自が車両ごとに日報用紙に書き入れ、各車両の燃費を公表する仕組みがあるにも関わらず未記入者があり、正確を期すため燃料算出の責任者を定め、燃費削減を促す。	経費削減をうたい文句に「おだやかな発進・おだやかな加速」に心がけて発進・急加速・急ブレーキがいかに燃費節減に悪影響をもたらすかを実践することを目指す。	15年以上前にはISO140001を取得し、ドライブレコーダー、デジタルタコグラフ等を採用したことで、急激な燃費削減が採用当時から10%以上の向上がみられました。しかし、最近では特に運送内容の多様性(月によって近長距離輸送・重軽量物・大型車・中型車)に迫られ、燃費管理が思うようにはできませんでした。
株式会社トーショー	中央市山之神3162-37		○		○		17		279,275.0			目標燃費、前年度より向上 30年度燃費 5.8km/ℓ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両の計画入れ替え</li> <li>・ エコドライブ、アイドリングストップの励行</li> <li>・ 毎月、車両別に燃費データを集計し提示</li> </ul>		
株式会社新和運輸	南アルプス市桃園1502-1		○		○		19		595.4			軽油1リットル当たり走行燃費は4.52kmであり、前年度比プラス1.8%であり、ほぼ目標を達成することができました。	ドライブコーダーのデータを基にしたアイドリング時間・速度・急発進・急ブレーキの抑制運転を指導。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転者ミーティングでの繰り返し指導。</li> <li>・ 車両法定整備点検等の実施強化。</li> <li>・ 貨物養生用ラップの利用少量化への取り組みは、継続実施。</li> </ul>	